平成 24 年 11 月 7 日

各　　位

会 社 名　ア　ド　ア　ー　ズ　株式会社
代表者名　代表取締役会長　藤澤　信義
（ＪＡＳＤＡＱ・コード　4712）
問合せ先　常務取締役　　恩田　聖敬
（電話 03－5843－8888）

平成 25 年 3 月期第 2 四半期累計期間及び通期業績予想（非連結）の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 24 年 5 月 15 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

１．平成 25 年 3 月期 業績予想の修正等

（１） 第２四半期累計期間（平成 24 年 4 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売　上　高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回予想（A）	10,500	600	550	420	円　銭 3.48
今回修正（B）	9,667	397	370	395	3.28
増減額（B－A）	△833	△203	△180	△25	－
増 減 率	△7.9%	△33.7%	△32.7%	△5.9%	－
(ご参考) 前期第２四半期実績 (平成24年3月期第２四半期)	12,276	843	782	873	7.65

（２） 修正理由

主力のアミューズメント施設運営事業におきましては、軟調な消費傾向に加えて、震災後の節約志向や国内外の経済の先行きへの懸念などから消費文化のあり方まで変わりつつある中、オリンピック開催に伴う在宅志向の高まり、度重なる天候不順の影響などが重なり、非常に厳しい経営環境となりました。

こうした状況のもと、新規・既存双方の顧客層獲得に繋がる全店型キャンペーンを展開したほか、各エリアマネージャークラスの人員の店舗配属による梃入れ策など、「集客」を最重要課題とした施策を各種実施いたしました。

また、第2の柱である建築不動産事業におきましても、強化した社内デザイン体制を当社の新たな強みとして推しながら、企画・設計から施工までのトータルプロデュースによる提案型営業を積極的に実施したことで、当第2四半期時点において昨年同期比で約2倍近い案件数を獲得することができました。

しかしながら、想定を上回る外的要因の影響もあって、主力のアミューズメント施設運営事業の集客数・顧客単価は伸び悩み、またこうした売上の減少による利益減を補うべく、各事業部の徹底したコスト削減や管理部門においても全社的な合理化策を引き続き推進したものの、期初に想定していた収益には至らないと判断し、売上高・営業利益・経常利益・純利益すべての開示予想数値につきまして、上記表記載のとおり見直すことと致しました。

（3） 通期（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想（A）	20,750	1,005	935	700	円 銭 5.80
今回修正（B）	20,000	400	300	130	1.08
増減額（B－A）	△750	△605	△635	△570	－
増減率	△3.6%	△60.2%	△67.9%	△81.4%	－
（ご参考）前期実績（平成24年3月期）	21,847	1,002	931	920	7.94

（4） 修正理由

第3四半期以降の国内外の経済環境におきましても不透明感は拭い切れない中、アミューズメント業界は依然として厳しく、特に個人消費の低迷は続くものと予想されます。今秋～冬にかけて、顧客注目度の高い新マシンも導入見込みであり、また第2の柱である設計・施工事業における受注状況も比較的好調な見通しではありますが、前述のとおり外的環境を保守的に勘案せざるをえない状況の中、主力のアミューズメント施設運営事業の抜本的な収益改善は楽観的には望めないものと判断し、平成24年5月15日付「平成24年3月期 決算短信（非連結）」にて開示した通期見通しについて、売上高・営業利益・経常利益・純利益それぞれを、上記のとおり修正するものと致します。

下期につきましては、主力のアミューズメント施設運営事業では、メダル会員サービスの刷新にはじまる、多面的な「集客」施策の向上に向けた新規顧客層への提案力の強化を図りながら、既存顧客層にとって満足度の高いマシンラインナップの充実した機種の導入や、全店規模の新たな人気イベントの開発と開催を図ってまいります。また、今後広がる顧客層への下地として最も重要視するなど、サービス力の強化に向けては、全店参加型の接客力を競い合うコンテスト開催や、メンテナンス研修などによって遊戯環境を充実させてまいります。また、管理部門も含めた全社的な店舗支援体制の構築と合理化策も展開してまいります。

第2の柱である設計・施工事業におきましては、前期より推し進めてまいりました設計・デザイン・施工等の多面的な営業を積極的に仕掛けることで、新規案件の継続獲得に努めるほか、さらには来期をも見越した事業部全体のブランディングに注力してまいります。

さらにこれらを礎とした上で、業種を問わず外部有力企業とのアライアンスの強化、ならびにグループ企業との更なるシナジー効果の最大化を図り、継続的な収益拡大を図れる企業に向けてまい進致します。

業界全体として厳しい状況が続いておりますが、今一度「基本に忠実」かつ「変化に敏感」な経営・運営をのもと、健全化が進む財務面を最大限に活かしながら、着実に収益体質の強化を図ることで、この軟調傾向の払拭を目指してまいります。

なお、有利子負債の圧縮については順調に進行しているものの、収益面においては本修正を含めて、先行きならびに改善に向けては道半ばであることから、期末配当予想につきましては、現時点では未定を継続するものと致します

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以 上